

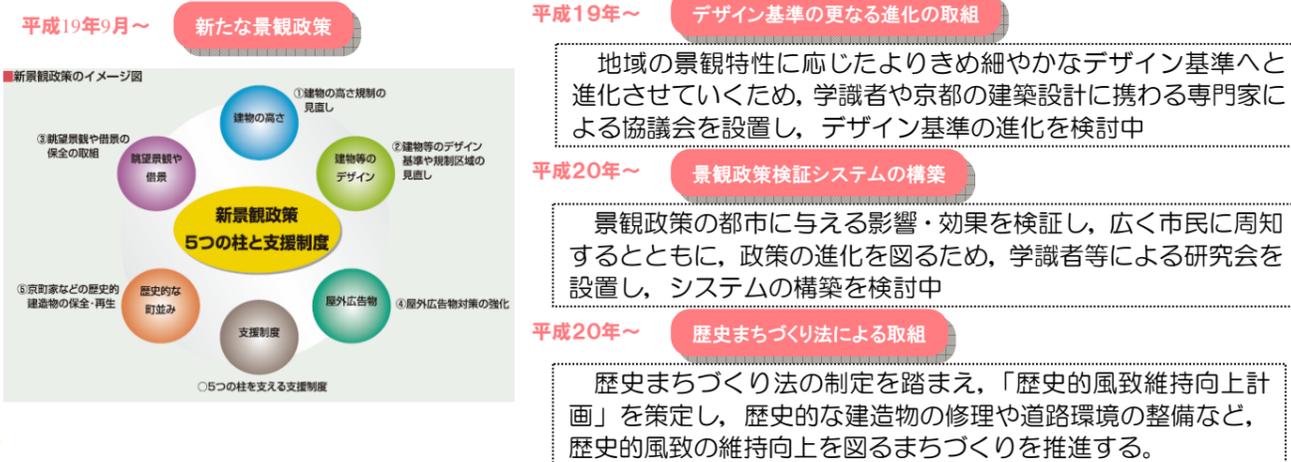
### 京都市基本構想における関連記述

# 景観

永い歴史に支えられた自然的風土である三方の山々，文化財や史跡の点在する山麓ろく部，そしてゆとりと景観に恵まれた住宅地の一帯は，自然と歴史的な景観の保全に努める。伝統的な町家や町並みが数多く維持され，商業・業務機能が集積し，職・住・文・遊が織り重なる歴史豊かな市街地は，調和を基調とする都心の再生に努める。そして南部は，高度集積地区を中心に，21世紀の京都の新たな活力を担う創造のまちづくりに努める。

### これまでの主な取組

- ・昭和5年の風致地区の指定を始め，美観地区の指定や町並み保全の取組など，これまでから様々な景観施策を展開。
- ・50年後，100年後も光り輝く京都であり続けるため，平成19年9月に「新景観政策」を実施。また，その検証システムの構築や政策の進化に向け検討中。
- ・歴史まちづくり法の活用を開始。（平成21年11月～）



### 論点1 現状と課題

- ◇ 活かすべきチャンス(追い風)は？ 放置できない問題(向かい風)は？
- ◇ 活用できる資源(強み)は？ 克服すべきこと(課題)は？

外部環境分析（施策を推進するうえで，追い風又は向かい風となる変化や社会的な状況）	
追い風	向かい風
<ul style="list-style-type: none"> <li>○国の景観政策の本格化&lt;33P&gt;</li> <li>○京町家の保全・活用に関する市民や事業者の関心の高まりと市民的活動の活性化&lt;34P,35P&gt;</li> <li>○市民による景観まちづくりの機運の高まり&lt;36P&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○京町家の消失と空き家の増加&lt;37P&gt;</li> <li>○景観上重要な要素となっている大規模な邸宅や庭園の消失の危機&lt;38P&gt;</li> <li>○京町家等の活用に対する建築基準法等の障壁&lt;39P&gt;</li> <li>○三方の山々の景観の変容&lt;40P&gt;</li> <li>○無電柱化等には，地元の合意形成及び電線管理者との共汗が必要不可欠&lt;41P&gt;</li> </ul>
京都の現況分析（他都市等と比較して，京都の現況が優位又は劣位である事項）	
京都の強み	京都が解決・克服すべき課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>○1200年の歴史・文化の積層</li> <li>○景観の保全・再生に対する高い市民意識&lt;42P,43P&gt;</li> <li>○京町家や社寺など木造の歴史的建造物の膨大な集積&lt;44P&gt;</li> <li>○全国をリードする景観政策&lt;45P,46P&gt;</li> <li>○市街地における緑化の推進&lt;47P&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事業の推進における財政上の限界&lt;48P&gt;</li> <li>○高齢化や地域経済の低迷等による歴史的建造物の担い手（所有者，職人等）の減少</li> </ul>

### 論点2 政策の基本方向

#### ◇ 今後10年間の基本的考え，価値観は？

#### これまでの動き

##### <現在の方向性>

- 1 時を超え光り輝く京都の景観づくりの推進
  - (1) 「盆地景」を基本に，三山の森林景観の保全・再生や緑景・水景等の自然的景観の連なりを基調とし，自然と共生する景観形成
  - (2) 歴史的景観の保全・再生とともに，創造的視点を加え，伝統文化の継承と新たな創造との調和基調とする景観形成
  - (3) 日常の暮らしや生業から醸し出される「京都らしさ」を活かした個性ある多様な空間から構成される景観形成
  - (4) 京都の価値を高め，都市の活力を生み出す景観形成
- 2 市民等の自発的な活動や協働による良好な景観形成の推進
- 3 歴史まちづくりの推進など，各種政策の連携を図り総合的な景観形成の推進
- 4 歴史的景観や緑の文化を未来へ引き継ぐ等，新たな「緑の基本計画」を策定中
- 5 安全で快適な歩行空間の確保，都市災害の防止及び都市景観の向上を図る，新たな「無電柱化推進計画」を策定中

##### <政策を進めるうえでの悩み>

- (主な課題)
- ・三方の山々の植生の変化
  - ・京町家の空き家の増加と消失
  - ・無電柱化等には，地元の合意形成及び電線管理者との共汗が必要不可欠 (政策上の悩み)
  - ・財政上，法制度上の制約がある。
  - ・歴史的建造物等の担い手の減少。

##### <関連データ>

- ・松くい虫被害の拡大や松からシイノキへの植生の変化など
- ・過去の町家調査の結果，都心部では京町家が年間2%の割合で減少
- ・無電柱化等を毎年2～3km進めており，平成20年度末には約53kmが整備済である

### 論点3 市民と行政の役割分担と共汗

#### ◇ 政策の推進に当たって市民や行政が行うべきことは？

### 論点4 10年後に目指すべき姿

#### ◇ 10年後のあるべき姿やそれが達成された状態を測る指標・目標値は？